

献辞

實方先生が北海道大学法学部を定年退官され、縁浅からぬ兵庫県の神戸学院大学に赴任されたのは、一九九六年の四月でした。新設なつてまだ間もない国際関係法学科で国際取引法と経済法を担当されました。さらに、二〇〇四年開設の大学院実務法学研究科（法科大学院）の開設に際しては中心的役割を果たされ、初代研究科長として法学部の発展に多大なるご尽力をなされました。

本学に携わった一〇年の間、教育研究のみならず、大学人としての生き方について公私にわたりお教え頂いたことは数しれません。

学部教育では国際取引法や経済法という、グローバル化の進む経済法の世界で、多年にわたりつちかっただけで、学問上の相談にも喜んでのつていただき、我われも

先生は教育研究のかたわら、公正取引委員会など各種の審議会の委員をつとめられ、多忙な毎日をご過ごされました。そしてその広い識見は学界と実業界で広く認められるところであり、われわれの誇りとするところでした。とりわけわが国の独占禁止法の理論と運用における業績とご活躍については、衆目の一致して認めるところでした。

先生はその飾らぬお人柄で我われと気軽に接してこられ、学問上の相談にも喜んでのつていただき、我われも

大いに助けていただきました。

二〇〇六年三月末をもって先生は本学を退職なされました。我われは、その永年のご功績にたいして、深甚な敬意の念をもって、ここに退職記念論文集を刊行し、先生に捧げることになりました。

先生には、これからも、何卒ご自愛いただき、いつそご壮健であられることをお祈りしますとともに、いつまでも後進のわれわれをご指導くださいまうよう心からお願い申しあげます。

二〇〇七年四月三〇日

法学部長 氏家伸一